

「開拓之碑」

北海道恵庭市恵南開拓

北海道中部の恵庭市は札幌市と新千歳空港のほぼ中間に位置し、人口は約7万人。交通の便が良いことから、いくつもの工業団地がある。農畜産業も主要産業であり、稲作や酪農のほか、野菜・花き栽培などが盛んに行われている。恵庭の開拓は明治初期から始まり、戦後、緊急開拓事業も実施された（当時は恵庭村）。

1870（明治3）年の高知藩の移住によって開拓が始まり、86年、山口県からの団体移民の入植で本格化した。その後も、同県や石川県、富山県などからの集団移住が続いた。

現在、同市内には「山口県人恵庭開拓記念碑」「富山県人開拓之碑」など数基の開拓記念碑が建っている。

同市恵南の寺田牧場（酪農）の敷地内にあるのは戦後開拓の記念碑で、碑銘は「開拓之碑」。両隣には、「馬頭観世音」「牛頭大王」の碑が建っている（写真）。

1945（昭和20）年、陸軍の演習場があった旧・恵庭村桜森地区が解放された。約100戸が入植したが、ほどなく、進駐軍より退去通告があり、48年末までに、全員が立ち退いた。一部の開拓者が恵南に移り住んだ。

「開拓之碑」は、恵南入植30周年を記念して、79年11月に建立された。裏面の碑文には、「昭和二十三年十二月緊急開拓者として原始の森と不毛のこの地に入植せるを似て恵南開拓は始まる 以来同志克く協力相和し幾多の苦難を克服し粒々辛苦風雪正に三十年 瘠薄の火山灰土化して沃野となり営々として業に勤しむ 茲に開基三十年を迎えるにあたり往時を回顧し同志相諮り碑を建て似て記念とす」と刻まれている。

さらに碑文の下段には、23名の開拓者の氏名が記されている。

惠南開拓 「開拓之碑」

- ①調査日 2019年9月10日
- ②所在 惠庭市惠南 寺田牧場敷地内
- ③地区の沿革 昭和20年、陸軍の演習場があった旧・惠庭村桜森地区が解放された。約100戸が入植したが、ほどなく、進駐軍より退去通告があり、23年末までに、全員が立ち退いた。一部の開拓者が23年12月に惠南に入植した。
- ④設置年月日 昭和54年11月
- ⑤設置者 13名の個人名が記載
- ⑥碑名 開拓之碑
- ⑦碑文（表面） 開拓之碑
- ⑧碑文（裏面） 國破れて山河あり 窮乏と荒廢の國土の中から祖國再建の使命を擔い昭和二十三年十二月緊急開拓者として原始の森と不毛のこの地に入植せるを似て惠南開拓は始まる以来同志克く協力相和し幾多の苦難を克服し粒々辛苦風雪正に三十年瘠薄の火山灰土化して沃野となり営々として業に勤しむ茲に開基三十年を迎うるにあたり往時回顧 同志相諮り碑を建て似て記念とする。
- ⑨現在の状況 酪農家の敷地内にあり農家が管理している。

